



住宅・店舗などの設計を手掛ける佐藤弥さんにより、昨年10月に設立された全国古民家再生協会秋田第一支部と全国空き家アドバイザー協議会秋田支部という2つの団体。今年4月からの本格スタートに向けて準備を進めている中、古民家再生と空き家問題に取り組む意義やその目的についてお話を伺った。



全国空き家アドバイザー協議会秋田支部の支部長はフリーアナウンサーの田村陽子さん(写真中央)。住職である佐藤賢明さん(同右)は副支部長。佐藤弥さんは事務局長だ。



全国古民家再生協会第一支部 支部長
全国空き家アドバイザー協議会秋田支部 事務局長

代表 佐藤 弥

株式会社 テクニカルマネジメントチーム
〒010-0003
秋田市東通6-1-31
TEL:090-5542-3368
<https://kominka-akita.org>
<https://akiya-adviser.org/shibu/akita/>



異業種と連携し、古民家を利用・活用したい

秋田県は古民家や無形文化財が多い。しかし秋田にはこれまで「全国古民家再生協会」※の支部がなかった。

「文化財として自治体が古民家の価値を活かすことは維持管理など問題点が多い。他県では市町村単位で連携し、事業者も含めて協力しながらインバウンド向けの宿泊施設として活用・収益化している例がある。今は日本ならではの体験を求めて来日する観光客が増えている。日本古来の伝統工法の建築物で、日本の生活様式を感じることは、海外からの観光客にとって魅力的なこと」と秋田県での支部の必要性を語る佐藤さん。

今後協会として、秋田での古民家を活用し、複合化された観光コンテンツを醸成していくため、異業種と手と手を取り合って進めていきたいと話す。

空き家課題を解決し、まちを活性化する

全国でも空き家は社会課題となっているが、この課題も自治体頼みでは、解決には至らないと佐藤さん。

「私的財産である家屋や土地の課題は、官民が連携していかないと解決は難しいと思い、全国空き家アドバイザー協議会の設立を進めることにしました」。

さまざまな制度や他県の成功事例など、全国のネットワークを活用し、手つかずだった「循環型建築」として機能することができる。現在のメンバーは、建設業・住職・フリーアナウンサーと個々が課題に取り組まなければならないと意識をもった方々で構成されている。秋田に住む一人ひとりに「建物の一生」を考えてもらえるように活動したいと語る。今回の2団体の立ち上げは、秋田にある古民家や空き家という価値あるものを活用するための第一歩につながるはずだ。

※全国各地域に残る日本の住文化である「古民家」を未来の子どもたちへ継承するために活動をおこなう各地の一般社団法人古民家再生協会で構成される全国組織。



専門的な知識も必要であり、月に1回会員全員で勉強会(例会)を行う。



2024年、新潟で行われた全国古民家再生協会の全国大会。



Airbnb japanが全国古民家再生協会に約1.5億円を寄付。